

5分でわかる自動車事故事例 No.17

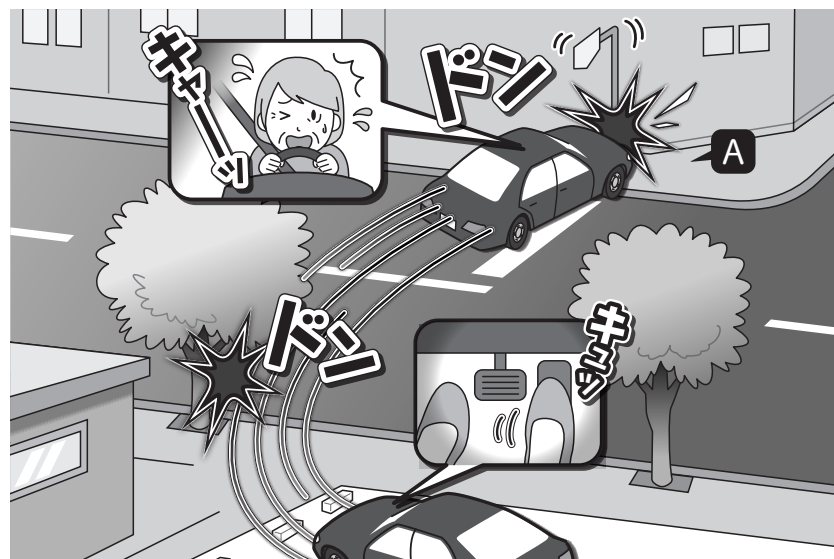
ブレーキとアクセルの踏み間違いによる単独事故

低下する身体機能を補った安全運転を心掛けることが大切です！

事例プロフィール

事故類型：車両単独
発生日時：午前11時過ぎ

Aさん
普通乗用車
70歳代女性



事故の概要

Aさんの状況

Aさんは、買い物帰りに食事をしようとレストランの駐車場に入りました。他に駐車している車も無く、駐車するのに特に障害となるものもなかったので道路から入ってすぐ手前側のスペースに止めようとゆっくり進行し駐車位置で停止しようとしていました。

しかし運転していた普通乗用車(オートマチック車)のブレーキペダルとアクセルペダルを踏み間違え、車を暴走させてしまい、駐車場の車止めを乗り越えて歩道の街路樹に接触、更に道路を横切って反対側歩道上に設置されていた標識柱に衝突させてしまったものです。

事故から学ぶ

この事故は、運転に不慣れでもなく、何かに気を取られていたわけでもなく、停車直前になって単にブレーキペダルとアクセルペダルを踏み間違えた過失が事故の要因です。

直後に止めようとするあまり余計にペダルを強く踏み込むため、暴走を加速させるというオートマチック車特有の恐ろしさがあります。

近年の車両安全対策は、事故被害を最小限にとどめるパッシブセーフティー(受動安全)技術から事故自体を起こさないようにするアクティブセーフティー(予防安全)技術へシフトしています。どんなに安全対策が進歩しても運転者の身体機能は年齢とともに低下します。特に運転に必要な視力・聴力・反応時間や動作などの機能が高齢者になるほど低下することは避けようがありません。高齢者ドライバーの方は、意識して低下する身体機能を補った安全運転に心掛けることが大切ではないでしょうか。

(出典)公益財団法人 交通事故総合分析センターの資料をもとに、ユニバーサルリスクソリューション(株)が作成

5分でわかる自動車事故事例 No.18

ながら運転が原因の追突事故

「ながら運転」という行為は、恐ろしい凶器にもなることを忘れずに！

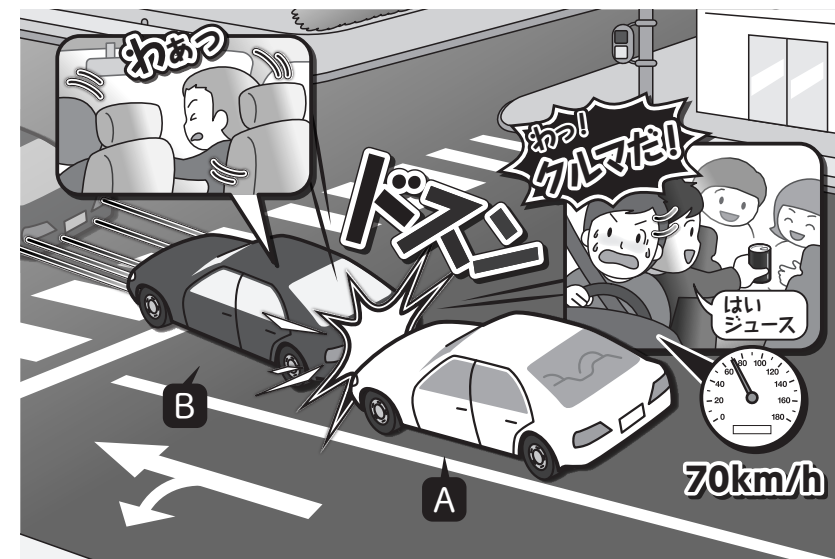
事例プロフィール

事故類型：追突
発生日時：土曜日の夜

Aさん
普通乗用車
男性



Bさん
普通乗用車
男性



事故の概要

Aさんの状況

Aさんは片側3車線の幹線道路において、小さい子ども2人(10歳・8歳)を乗せて時速70kmで走っていました。子供に飲み物を渡そうと脇見をしてしまい信号待ちで停止していたB車に気付くのが遅れ急ブレーキを掛けたが間に合わず衝突してしまいました。Aさんの車の乗員は全員無傷でした。

Bさんの状況

Bさんは信号待ちをしていたところにAさんの車の接近に気づく間もなく追突されました。Bさんの車の助手席同乗者は頸椎捻挫の軽傷を負いました。Bさんの車両後部の損壊は大きく、追突された時の衝撃の大きさを感じられます。幸いBさんの車の後席には誰も座っていませんでした。

事故から学ぶ

Aさんは一般道路を時速70kmの高いスピードで走りながら脇見をしたことで、Bさんの車に接近していたことに気づくのが遅れ追突しました。このスピードで5秒間脇見をしたと仮定すると約100m近く進むことになり、この間自動車や歩行者が飛び出したとしても避けることはできません。

Aさんが速度を落として運転に集中していれば衝突は十分防ぐことができた事故と言えます。「ながら運転」という行為は、飲酒運転、暴走行為、信号無視とは受けるイメージが異なり軽く受け止めがちですが、「カーオーディオを操作する際にわき見運転となり、幼児の列に突っ込む」というニュースもありました。自動車は生活に欠かすことができない便利な乗り物ですが、運転をする人の心がけ次第では恐ろしい凶器にもなることを忘れずに日頃の運転に心がけてください。

(出典)公益財団法人 交通事故総合分析センターの資料をもとに、ユニバーサルリスクソリューション(株)が作成